

第3学年 道徳学習指導案

1 主題名 「正しいことは勇気をもって」 1－(3) 善悪の判断・勇気

2 ねらい 自分が正しいと思うことを、勇気をもって行おうとする心情を育てる。

3 資料名 「よわむし太郎」(出典:「私たちの道徳」小学校3・4年 文部科学省)

4 主題設定の理由

(ア)ねらいとする道徳的価値について

人間が人間らしく生きるのにふさわしい行為やそれを推進することが正、ふさわしくない行為やふさわしい行為を阻害することが不正である。まず、この正・不正を理解することが大切である。そのうえで、正しいと判断したことは積極的にいき、正しくないと判断したことは断固として行わないことが勇気である。しかし、正しいと知りつつもなかなか実行できなかつたり、間違っていると分かっているのに周りに流されてしまったりすることもある。そこで、正しいことを行えないときの後ろめたさや後悔の念と、勇気を発揮したときの自信を誇りに考えることなどを通して、正しいと判断したことは勇気を持っていき、正しくないと判断したことは、勇気を持ってやめる態度を育てることが大切である。

(イ)児童の実態(児童観)

本学年の児童は、子どもが本来持っている正義感を素直に表現できる児童が多い。しかし、友達に対しては厳しい目で注意するが、自分の言動を顧みることが少ない。また、悪いと分かっているのに周りの雰囲気流されて、やっちはいけないこともしてしまうこともある。そこで、勇気を持って行えた時の自信と誇りについてじっくり考えることを通して、「本当の勇気」についてじっくり見つめさせ、勇気ある行動の根底には優しさがあることに気付かせ、勇気ある行動の素晴らしさに共感させたい。

(ウ)資料について(教材観)

本資料は、「よわむし太郎」と呼ばれていた太郎が、白い鳥のため、子どもたちのため、身を挺して白い鳥を守ろうとした勇気ある行動を描いている。「あの鳥をうってはだめだ。」という言葉に込められた太郎の、子どもたちを思う必死の気持ちを味わわせたい。また、殿様という権威に対する不安、弓で射られるかもしれないという恐怖感に打ち勝ち、太郎を勇気ある行動に駆り立てていったものに注目させ、勇気ある行動の根底にある優しさについて児童に考えさせたい。

(エ)本時の中心となる手だて(指導観)

指導に当たっては、ねらいとする道徳的価値について問題意識をもたせるために、「私たちの道徳」を活用して自分の道徳的価値についてのとらえを表面化させる。その後、勇気をもって行動するよさはわかっているのに実行することは難しいという気付きから「勇気ある行動のために大切なものは何か」という学習問題につなげる。展開において、絶対的な権力者である殿様の前に立ちはだかりその行為を止めるということは、命に関わる重大な行為であるということを理解させることで、ぎりぎりの判断を迫られる中で、太郎が子供の気持ちを大切にすると自分自身の判断によって行動したことの尊さを感じ取らせたい。

5本時について

(1) 日時 平成29年10月31日(火)

(2) 場所 3年教室

(3) 本時の展開

	学習活動 ○発問	・児童の発言	☆評価 □留意点
導入	<p>1. 本時の学習の方向性を知る。</p> <p>○みなさんは、「勇気がある人」ってどんな人だと思いますか。</p> <p>○今日は、「本当の勇気」について考えていきます。</p> <p>○今日のお話の登場人物はこの人です。</p> <p>○どんな人に見えますか。</p> <p>○では、太郎は本当にこういう人物なのか、お話を読んでみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・喧嘩を止めることができる人 ・敵に立ち向かう人。 ・誰にでも注意できる人。 ・危険なことをする人。 ・あきらめない人。 ・何事にも負けない強い人。 ・挑戦する人。 ・しっかりした人。 ・泣き虫。 ・弱虫。 ・勇気がない。 	<ul style="list-style-type: none"> □共書きをする。 (日付・資料名・発問) □学習テーマについて学習前のイメージを書かせる。 □学習テーマを伝える。 □泣いている太郎の顔の絵を示し、主人公の柄を想像させる。
	<p>2. 資料「よわむし太郎」を聞き、太郎の行動の基にある気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>(1) 「よわむし太郎」について考える。</p> <p>○お話を聞きましょう。P34～P35L8</p> <p>○「よわむし太郎」という言葉からどんなことを考えますか。</p> <p>○太郎ってどんな人ですか。</p> <p>(2) 殿様の前に立ちはだかる太郎の気持ちを考える。</p> <p>○続きを聞きましょう。P35L9～P37</p> <p>○今のお話の場面は、こんな場面でしたね。</p> <p>○「だめだ。だめだ。あの鳥をうっては大めだ。」と殿様の前に立はだかった太郎はどんな気持ちだったと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい。 ・背が高く力がある。 ・子どもが好き。 ・鳥を大切にしている。 ・からかわれても、笑っている。 ・いじめられている。 ・子ども達と仲良し。 ・子どもたちが大切にしている鳥を守りたい。 ・白い鳥が殺されてしまうと子どもたちが悲しむ。 ・大切な鳥がうたれちゃうから。 ・大好きな鳥を助けたかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> □物語の資料を配布し、読む視点を与え、内容理解を助ける。 □物語を前後に区切り、人柄の変化を捉えやすくする。 □はじめの場面絵を示す。 □発言を板書していく。 □立ちはだかる太郎の顔の絵を示す。 □「太郎には勇気がある。」ということを押さえる。 □発言を板書していく。 □気弱な人がヒーローの様な別人になったかのように思わせ、後半の「勇気は誰の中にもある」ことに気付かせるために、ゆさぶりをかける。

	<p>(3)「よわむし」と呼ばれなくなった太郎について考える。</p> <p>○太郎ってどんな人ですか。</p> <p>○でも待って、はじめは、からかわれても笑っている、怖い人にも言いづらい、気弱な感じだったけど、後半は、怖い人にも立ち向かえる人だったね。何だか違う人のようだね。</p> <p>3. 本当の勇氣について考える。</p> <p>○太郎の勇氣とは、どんな勇氣だと思いますか。</p> <p>○誰でも勇氣をもっているんだよね。中には太郎のように、優しさから勇氣に変わる人もいるんだね。だけど、同じなのは、勇氣を出す時って、それぞれみんな「正しいことをしたい」という強い思いがあった時なんだよね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強い人 ・勇氣がある人 ・命がけで鳥を助けた。 ・太郎ってえらいな。 ・本当は強かった。 ・勇氣をうまく出せた。 ・もっていた。 ・前からあったと思う。 ・正しいことは正しい、間違いは間違いといえる強さ ・自分が正しいと思ったことを行動に移すことができる強い心 ・勇氣は誰でももっている。 	<p>□殿様の前に立ちはだかる場面絵を示す。</p> <p>□発言を板書していく。</p> <p>□問い返すことで、太郎の行動の意味を深く考えさせ、太郎の気持ちに迫らせる。</p> <p>☆太郎の気持ちに共感し、行動の意味を考えている。(発言)</p> <p>□さらに、問い返すことで、勇氣を出せる人について深く考えさせる。</p> <p>□勇氣は正しいことをしたいという強い思いがあった時に出せることを確認し、板書する。</p>
<p>終末</p>	<p>4. 本時の学習を振り返り、学習感想を書く。</p> <p>○今日の学習をまとめて、学習感想を書きます。まず「勇氣がある人」とはどんな人か、書きます。</p> <p>○発表してくれる人。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強い思いをもてる人。 ・何にでも立ち向かえる人。 ・優しい人。 ・何かを守ろうという強い気持ちを持っている人。 ・正しいことをやり遂げる人。 	<p>□授業開始時と終了時における考えが、友達の発言との関わりの中でどのように変化してきたかをまとめるように促す。</p> <p>□机間巡視をし、勇氣の本当の姿に気付いている児童に、発言を促す。</p> <p>☆「勇氣がある人」は、力があって威張る人ではなく、誰でも、「正しいことをやり遂げたい。」「守りたい。」という強い意志をもって行動できる人であることをノートに書くことができる。(ノート)</p>

6 評価

- ・正しいと判断したことは、進んで行おうとする心情を育てることができたか。

7 事後の指導

- ・学級活動
- ・わたしたちの道徳
- ・教科学習

8 板書計画

The board is divided into three vertical columns. The rightmost column is titled 'よわむし太郎' (Yowamushi Taichiro) and contains a list of bullet points: '子どもたちが好き' (Children like them), 'いつもここにしている' (Always here), 'からかわれてもわらっている' (Laugh even when teased), and 'せが高くて力がある' (Tall and strong). Below this is a box labeled '挿絵①' (Illustration 1). The middle column contains a quote: '「よわむし」とよばれなくなった太郎' (Taichiro, no longer called 'Yowamushi'). Below this is a box labeled '挿絵②' (Illustration 2). The leftmost column contains a list of bullet points: '強い人' (Strong person), '勇気がある人' (Person with courage), '命がけで鳥を助けたい' (Want to help birds at risk of death), and '本当は強い' (Actually strong). Below this is a box labeled '挿絵③' (Illustration 3). A separate box on the far left contains the text '本当のゆう気とは。' (What is real courage?). A large vertical box on the right side of the board contains the text: '「だめだ、だめだ。この鳥をうってはだめだ。」' (No, no. It's no good to catch this bird.)

9 成果と課題

- 「勇気」について考える授業であったが、子どもたちは分かっているようで、分かっていない価値観であったため、そのことについて考える有意義な時間となった。
- 校内研で外部講師を招いて学んだ事が生かされた。
- 扱った教材が子どもたちに適しており、共感を得やすいものであった。そのため、児童が進んで自分の考えを発表できた。
- ワークシートが考えを深める良い手立てとなった。
- 挿絵が効果的に子どもたちの思考を助けてくれた。
- △自分の書いてまとめる時間が思った以上にかかり、これからの書く学習の訓練が必要だと感じた。
- △同じパターンの繰り返しの授業形態になってしまったので、意見を交換して考えを深める場面（ロールプレイング等も）を取り入れたら良かったのかもしれない。
- △終末はどのようにするか授業づくりの段階から議題にあがった。教材から離れ、自分自身や生活とリンクさせて考えさせると書くことが難しい児童がいた。

本当の勇気 「よわむし太郎」

3年 組 ()

- ◎ 「勇気がある人」ってどんな人だと思いますか？

「本当の勇気」とは何かについて考えよう。

- ◎ 太郎って、どんな人？



- ◎ 「だめだ。だめだ。この鳥をうってはだめだ。」
と、との様の前に立ちはだかった太郎の気持ちを考えてみましょう。

- ◎ 「よわむし太郎」という名前が消えたのは、どうしてでしょう。

- ◎ 本当の勇気について、考えてみよう。

- ◎ 「本当の勇気」がある人について考えながら、感想を書いてみよう。



